

○江頭淳二・伊東寛史
(佐賀農業セ白石)

【目的】

レタスは、佐賀県の露地野菜のなかで重要な品目である。しかしながら、夏まき秋どり（8月中下旬播種，9月上中旬定植）の作型では，変形球（抽台，タコ足球）の発生のため生産が不安定である。そこで，夏まき秋どりレタスにおける変形球の抑制技術を確立するため，変形球の発生が少ない品種の選定，育苗期間における夜間の低温管理による抽台抑制効果，育苗期間の施設内の下温管理による（遮光資材，簡易細霧冷房）抽台抑制効果，育苗培地への保水添加によるタコ足球抑制効果について検討した。

【材料および方法】

試験1：変形球の発生が少ない品種の選定

2002年8月9日，16日，23日に，15品種・系統を供試し，2003年8月11日，18日，25日に，20品種・系統を供試し播種した。栽植様式は，畝幅145cm，株間30cm，条間35cm 3条植とした。

基肥として N:P₂O₅:K₂O=26:31:24kg/10a 施用し，黒マルチを被覆した。

試験2：育苗期間における夜間の低温管理による抽台抑制効果

育苗トレイを低温庫へ日没に移動し，夜明けに育苗施設に搬入した。低温庫内の温度を10℃，15℃，20℃とした。「V（ヴィ）レス」を供試し，2002年8月9日，2003年8月11日に播種した。栽培方法は，試験1と同様とした。

試験3：育苗期間の施設内の下温管理による抽台抑制効果

育苗施設内の下温のため，簡易細霧冷房（スプリンクラーの霧状ノズルにより散水した。）および遮光率50%，70%の内張り遮光資材を使用し，2002年8月9日に播種した。供試品種，栽培方法は試験1と同様とした。

試験4：育苗培地への保水添加によるタコ足球抑制効果

育苗培地に保水剤アクアキープSA60を培地1ℓあたり5g，10gを添加した。2002年8月18日に播種し，簡易雨よけパイプハウスで育苗した。供試品種，栽培方法は試験1と同様とした。

【結果および考察】

試験1：抽台やタコ足球による変形球の発生が少なかった品種は，「サウザー」，「からさわ」であった。

試験2：夜温を10，15，20℃で育苗することにより，抽台の発生が少なくなった。このことから，レタスにおいては育苗期間のみの夜間の低温管理で抽台の発生を抑制できることが認められた。

試験3：内張り遮光資材（遮光率70%）や簡易細霧冷房を用いた育苗では，播種から定植までの育苗期間中の積算温度が，慣行育苗より低下し，抽台の発生も少なくなった。この結果，夏まき秋どりレタスにおいて，育苗期間のみの下温管理により抽台の発生を抑制できることが認められた。

試験4：育苗培地への保水剤の培地1ℓあたり5g添加によりタコ足球の発生が少なくなった。また，10g添加も効果が認められた。

表1 降温方法の違いと抽台発生率

| 区名 | 抽台率 |
|-------------------|------|
| | % |
| 簡易細霧冷房区 | 4.8 |
| 内張り資材区 | 4.8 |
| 内張り資材 +簡易細霧噴霧区 | 9.5 |
| 対照区 | 20.6 |

注) 対照区は，内張り資材としてラブリットを使用した。

表2 夜間の温度の違いと抽台発生率

| 温度 | 球外抽台 | 抽台分球 | 計 |
|-----|------|------|------|
| | % | % | % |
| 10℃ | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 15℃ | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 20℃ | 1.6 | 0.0 | 1.6 |
| 無処理 | 19.0 | 1.6 | 20.6 |